

2017年3月6日掲載

口腔がんになりやすい人

喫煙 最大の危険因子

わが国における口腔（こうくう）がん発症の男女比は3対2と男性に多く、年齢的には60～70歳代が最多です。また部位別では、舌の約6割が最も多く、以下頬粘膜、口腔底、上顎歯肉、下顎歯肉、硬口蓋の順となっています。

口腔がんの発生要因はいろいろありますが、タバコの煙には多くの発がん性物質が存在することが分かっており、喫煙は最大の危険因子と考えられています。喫煙者の口腔がんによる死亡率は、非喫煙者の4倍とされています。また重度の飲酒もハイリスク因子で、喫煙と飲酒は口腔がんの発生に相乗的に作用しています。他にも不潔な口腔衛生状態、合っていない入れ歯やむし歯でとがっている歯など、慢性的な粘膜刺激も関与が疑われています。

口腔がんの見た目での特徴は、白い斑点、肉が盛り上がったような形態、ただれ、口内炎のようなものなどさまざまですが、おおむね粘膜表面が汚く、触って硬い感じがあり、ときに出血や痛みを伴います。

口腔がんを疑うポイントは、①口の中に硬い「しこり」がある②口の中に出血しやすい場所がある③3週間以上治らない口内炎がある④口の中が腫れて、入れ歯が合わなくなった⑤口の中に白い部分または赤い部分がある⑥口の中がしびれる—といった状態です。ご自身でチェックしてみてください。

少しでもおかしいと思ったら、すぐにかかりつけの歯科医院を受診してください。